

暖

D A N

ご自由にお持ち帰り
ください

2023.Winter
No.2

Contents

新年のごあいさつ

医師会長、病院長、看護部長

チーム医療

NST・褥瘡ケア

お知らせ



中核医療センター・地域医療支援病院

霧島市立医師会医療センター

新年のご挨拶

始良地区医師会会長 佐藤 昭人

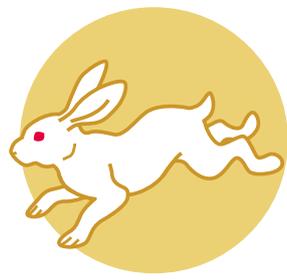


明けましておめでとうございます。皆様、それぞれの思いで新しい年を迎えられた事と存じます。ここ数年、われわれ医療関係者もコロナという暗雲のもと晴れやかな気持ちを持つ機会もめっきり少なくなり、さらにテレビでは評論家たちが日本の医療のコロナへの対応について海外と比較し病床の確保が出来ていないなどと批判しています。実情はどうでしょうか？日本は海外と異なり国民皆保険であり貧富の差なくだれもが同じ医療を受ける事が出来、病床をもつ病院は種々の病気の患者さんを常に受け入れているためコロナ病床を簡単に増やす事ができません。そんな中でも当医療センターは可能な限り一般病床をコロナ病床に転換し対応しております。さらに感染が拡大した際は近隣の病院や診療所などと連携をとりコロナやコロナ以外の疾患へ対応しております。

さてこれからの病院運営にあたって地域医療構想、働き方改革、医師の偏在など大きな山が待ち構えています。当医療センターは地域医療構想にお

ての中核病院であり民間の病院で対応できない不採算部門を含む当地域に必要な医療を担う使命があります。また働き方改革については十分な医療体制の確保のためメディカルスタッフの増員、そして医師の偏在については鹿児島大学との良好な関係作りなどが必要となります。これらの山を乗り越えるために経費を節減しながらしっかりと議論を重ね対応していく所存ですが多くの出費も予想されます。皆様のご理解を宜しくお願い申し上げます。

いよいよ今年より新病院の建設が本格的にスタートいたします。ホスピタリティの向上を目指し、患者さんの視点に立ちそして現場の多くの意見も取り入れた全室個室の新病院に生まれ変わります。霧島市と医療センターと医師会と議論を交わしながらコロナ禍でも皆様が安心して暮らせるよう住民の方々に愛され信頼される病院を目指して本年も日々、努力致します。皆様にとって良い一年でありますように…



謹んで新年のお慶びを申し上げます。

看護部長 増田 いづみ



日頃より地域住民の皆さま、地域医療機関の皆様におかれましては、霧島市立医師会医療センターへのご理解、ご協力を賜り厚く感謝申し上げます。

相変わらずのコロナ禍、そしてロシアのウクライナ侵攻と心が辛くなるような出来事が続いております。目に見えない脅威、目に見える脅威がなくなり、皆が早く安心して暮らせる平和な世界になることを願うばかりです。

私たち看護職員は、看護の理念を「患者さん一人ひとりをかけがえのない個人として尊重し、心の通い合う看護を目指します」と掲げ、二十四時間、患者さんの近くにおいて、患者さんの命、暮らし、尊厳を守るようにケアを提供しています。

ナイチンゲールは「看護は芸術であり科学である」と言っています。日々、提供している看護は、同じように見えますが、その瞬間は一回限りであり、看護師の手によってつくられるケアは、一人ひとりに根拠をもって提供されるものです。患者さんには個性があり、同じ疾患、同じ年齢でも一人として同じ人はおられません。患者さんに応じた「最善」を見出し、看護を提供していくことは決して簡単なことではありません。



輝く二〇二三年に期待して

病院長 河野 嘉文



新年明けましておめでとうございます。

二〇二〇年初頭に新型コロナウイルスの中国での流行が報道され始めた頃、普通の風邪ウイルスの一

つであるコロナウイルスがそんなに恐ろしいウイルスに変異するものだろうかと半信半疑でした。ウイルスは人や動物の細胞の中でしか生きられないし、よく効くワクチンや薬がすぐに開発され、人類と共存するはずと考えていました。現実には三年経過しても今ひとつ安心できない状況が続いていますので、まことに将来予測は難しいものです。

二〇二二年二月からのロシアによるウクライナ侵攻も、本稿執筆時点では和平に向けての動きは全く見られません。一方、その影響は世界的に非常に大きく、当院の新築計画にも波及してきました。建築資材不足と歴史的円安による高騰で、二〇二一年十一月の入札成立時には考えられなかった経費的課題で計画変更を余儀なくされており。十年以上かけて検討を重ねてきた計画に修正を加えなければならぬのは残念ですが、それも予想外の社会情勢

に起因するもので仕方ありません。着任時の職員との面談で、「新しい病院計画には夢がある」と話をして、病院新築の話は十年以上前からあります。コメントも聞きました。そのため、着工直前の延期発表に戸惑いましたが、おそらく本年早々には起工式にたどり着けそうです。どのような社会変化があるろうとも市民の健康と生活を守る医療がないがしろになってはいけませんので、霧島市長はじめ担当課、始良地区医師会、そして病院職員が一丸となって対応策を検討していきます。

地球上の物的・知的財産は人類共有のものであり、地図にしかない国境や県境にこだわることなく、自助と互助をバランスよく、建設的意見を交換しながら仲良くやっていける国際社会であってほしいです。また、当院も地域の皆様と交流し、住民の方々に頼っていただけの病院でありたいと思えます。二〇二三年が当院の更なる発展のスタートの年になると思います。当地区の医療提供体制の更なる充実に向けて、「ご理解とご協力のほどよろしくお願ひ申し上げます。

せん。しかし、それが、看護師の目指すべき終わりのない目標であると私は考えます。「患者さんの最善を考える」という目標にベクトルを合わせ、目標を達成するために専門性、看護力を向上し何よりも人間性豊かな看護師の育成に取り組み、私自身も共に成長できるようにして参ります。

続くコロナ禍で、医療の現場、ひとの暮らしも大きく変化し人々の意識や考え方も変わり、これまで通りが通用せず緊張と再構築の連続でした。その中で、その人らしく豊かに生きる為にはどうしたらよいか、何か出来ることはないかを考え、昨年は、一歩前へ進めることが出来たように思います。患者さん、そしてご家族が安心して当院を利用いただけるように院内感染対策の強化やオンライン面会ができる環境も整えて参りました。また、面会制限の方もCOVID-19の感染状況と患者さんの状況をみながら制限を緩和することも進めております。

現代は、Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性）の4つの頭文字をとって『VUCA』の時代と言われています。考えや価値観も様々で多様なニーズに応えられるよう、患者さんの選択肢が広げられるように努めて参ります。

これからも、地域住民の皆様へ愛されるより良い病院を目指して、看護職員一同頑張っていきます。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い致します。

この新しい年が皆様にとりまして幸多き一年になりますよう、心からお祈りいたします。

NSTの活動



Nutrition Support Team

NST(栄養サポートチーム)は、医療の一環として、関連する多職種によりその専門性を持って、患者さん個々に適切な栄養療法(静脈・経腸・経口栄養)を行うことを目的に活動しています。

メンバーは、医師・薬剤師・栄養士・言語聴覚士・各病棟のNSTリンク看護師で編成されており、毎週水曜日の午前8時にカンファレンスをしています。年間で約120件介入しており、食事内容や検査データ、飲んでいるお薬など、患者さんを色々な角度から捉えて、問題となることはないか話し合い、対応策を考えています。



例えば、低栄養状態の患者さんは、ただ単に食事量が少ないだけでなく、お口の中にトラブルを抱えている場合があります。総義歯が合わない、口内炎が来ているという場合は、歯科の先生に診察を依頼してお口の中の状態を整えてもらうなどの対応で食事量があがることがあります。当院は、NST活動と口腔ケアの活動をする委員が同じなので、連携がスムーズに取れるのも特徴の一つです。

医師

チームの総括と方向性を指示してくれます。



チームスタッフがどのように活動しているか紹介します。

言語聴覚士

摂食・嚥下機能の評価や情報提供、患者の運動機能に関する情報提供をしています。



薬剤師

輸液療法の選択・調剤の指導や助言、投与経路に応じた内服薬の形態提案、その他、食欲に関連する薬剤の情報提供を行ってくれます。



管理栄養士

栄養アセスメント・食事摂取状況に応じた内容調整の提案、患者・家族への栄養食事指導、栄養療法関連食品の情報提供を行っています。



看護師

栄養障害の有無や程度の判定を行い、問題症例の抽出、主治医の治療方針の確認、時に歯科医師との調整を行っています。



以上のチームスタッフが週に1回集合し、患者の方向性や思いを確認し合い、栄養状態の維持や改善をどうしていくか話し合っています。

褥瘡対策

じよくそう

霧島市立医師会医療センター
褥瘡対策チーム

褥瘡（床ずれ）とは、体動困難や麻痺、栄養低下など様々な要因が重なり合い、できてしまう皮膚の損傷のことをいいます。褥瘡は、身体的影響はもちろんですが、精神的な影響、看護・介護の負担などに関係し、生活の質を低下させてしまったため、褥瘡発生予防・治癒の促進が必要になってきます。褥瘡対策チームは、医師、看護師（皮膚・排泄ケア認定看護師、特定看護師）、薬剤師、管理栄養士、リハビリスタッフ、事務部職員で構成され、褥瘡発生予防及び治療などの対策を推進し、褥瘡管理に関して必要な措置を図ることを目的とし、活動しています。褥瘡のみではなく、創傷についてもコンサルテーション（相談）があり、定期的に院内ラウンドやカンファレンス（話し合い）を行い、現場の支援を実施しています。具体的にはマットレス選択、ポジショニング（体位の調整）方法、スキンケア方法、栄養サポートチームとの連携など提案や実践、相談をしています。褥瘡や創傷に対しては、局所処置や悪化防止対応を行っています。最近では「スキナーテア（皮膚裂傷）」が注目されていますが、当院でもスキナーテアの予防・治療の提案、教育など取り組みを積極的に開始しています。スキナーテアを含め、褥瘡や創傷などの予防や早期治癒を目指して、チーム一丸となって取り組んでいます。

当院のみではなく、地域のみなさんへのご相談にも対応しております。医療者からの相談支援、在宅で療養されている患者・家族の相談支援などもしておりますので、直接ケアやチームでの活動などご相談ください。





11月から診療情報 統合システムを導入しました。

従来の部門ごとの単体システムから拡張された、各部門システムを統合する診療データ統合管理システムです。

全てのデータを患者ごとに1画面上に時系列で一括表示することにより、各部門検査の関連性も把握可能になります。

従って、紹介先のデータ（検査結果、画像）も同じ画面で見ることができます。

▶ 患者さんの変更点

紹介状をお持ちの患者さんからお預かりした紹介状・画像は全て受付で取り込み作業を行います。従来各診療受付窓口でお預かりしていた他院からのお手紙や画像は総合受付のみでのお預かりとなりますので、直接総合受付にお渡し下さい。時間帯によっては、取り込み作業に時間がかかる場合もございますのでご了承くださいませようお願い申し上げます。

たけのこども館

院内保育園



準備する物 ●お芋のツル ●培養土入り袋

お芋掘りをしました

たけのこども館では、季節の行事をたくさん取り入れた明るく楽しい日々を過ごしています。今回は、院内で栽培したサツマイモほりイベントを行いました。培養土の袋の中で大きく育ったお芋♪自分達のからだ程の長〜いツルを一所懸命にほり上げました！収穫したお芋は持ち帰って、さっそくお母さんにおいしいサツマイモの料理を作ってもらったようです♥
親子でふれあえる素敵な時間が、これからたくさん作れますように☆



このおいもでおみそ汁作ってもらいたいなあ



さつまいもごはんをママに作ってもらおう♥



スイートポテトが食べたいなあ♥



〒899-5112 鹿児島県霧島市隼人町松永3320番地

霧島市立医師会医療センター

TEL 0995-42-1171 (代表) FAX 0995-42-2158

受付時間 8:30~11:00

診療時間 8:30~17:00

休診日 土・日・祝・年末年始